

北陸農政局農山漁村男女共同参画フォーラムの概要

1 開催日時

平成24年11月27日(火)
13:30～15:30

2 開催場所

北陸農政局 広坂合同庁舎 大会議室
(金沢市広坂2-2-60)

3 主催

北陸農政局

4 フォーラムの内容

農林水産業、農山漁村における男女共同参画の実現に向け、男女が共同していきいきと活躍し優良な取組を行っている者に対する表彰を実施し、北陸地域での男女共同参画の一層の推進を図るため、フォーラムを開催し、女性農業者など57名の参加がありました。

また、表彰式後、「NPO 法人田舎のヒロインわくわくネットワーク」理事山崎洋子氏の基調講演及び優良事例紹介を行いました。



(1)男女共同参画優良事列表彰式

受賞者(北陸農政局長賞:6名)

部 門	個 人 名
経営参画部門(団体)	NPO法人よもぎの会 (新潟県上越市)
経営参画部門(個人)	川岸 美恵子 氏 (富山県氷見市)
経営参画部門(個人)	長田 泰子 氏 (福井県大野市)
社会参画部門(個人)	佐野 トミイ 氏 (新潟県加茂市)
社会参画部門(個人)	河二 和枝 氏 (石川県金沢市)
社会参画部門(個人)	片岡 喜美子 氏 (福井県坂井市)

(2)基調講演

テーマ「NPO 法人田舎のヒロイン

わくわくネットワークの目指すもの」

「NPO 法人田舎のヒロインわくわくネットワーク」

理事 山崎洋子氏

山崎氏から、夫とともに牧場を営みながら、地域との交流を通し、食のあり方や教育・環境・国連でのスピーチについて講演を頂きました。



(3)優良事例紹介

男女共同参画優良表彰受賞者の皆様から活動事例紹介を行いました。

受賞者それぞれから、取組の背景や課題、今後の夢等を発表していただきました。



平成24年度 北陸農政局男女共同参画優良事例表彰式 於 金沢広坂合同庁舎 平成24年11月27日

左から、片岡喜美子氏、長田泰子氏、河二和枝氏、齊藤局長、川岸美恵子氏、佐野トミイ氏、NPO 法人よもぎの会 小林良子氏、「NPO 法人田舎のヒロインわくわくネットワーク」理事 山崎洋子氏

受賞者の活動事例紹介

経営参画部門（団体）

NPO法人よもぎの会（新潟県上越市）

新潟県上越市（旧東頸城郡牧村）の「よもぎの会」は、平成11年に首都圏の修学旅行を受け入れ、民泊と農業体験の場を提供する田舎体験が開始されたのをきっかけにして、村の特産品として郷土料理「ミョウガ団子」（よもぎ餅をミョウガの葉で包んだもの）を商品化した。また、平成17年の上越市との合併を前に、村に伝わる行事食や郷土食を再現するとともに、手作りで冊子「牧村の郷土料理、伝えておきたい味と行事」を発行した。地域では地元の体験交流施設の管理運営を任せられ、自然、歴史、食をテーマに農業・食体験メニューを企画し、実践的な活動を開始した。このような活動を公に認知された組織として地域に広げていくために、平成21年にNPO「よもぎの会」を設立した。

現在は、幅広い体験交流活動を通じ、地域の郷土料理・伝統料理・食文化を広く伝承するほか、地域でとれた農産物の加工販売、高齢者への食事宅配活動等、地域の活性化に大きく貢献している。

経営参画部門（個人）

かわぎし 川岸 みえこ 美恵子 氏（富山県氷見市）

高校を卒業後、兼業農家であった家で、自分が主体となりポットマムの栽培を始めた。農業経営を行う中で、経営のノウハウが必要と感じ、農業をしながら大型スーパーにも勤務した。昭和60年には転作作物の大豆で味噌加工を開始した。平成8年には農業経験がなかった夫も就農し、米・大豆の生産を中心とする営農部門を夫が、味噌・干し柿の農産物加工・販売部門を川岸氏が担当する「（有）ファームこばやし」を設立した。翌年には、市内の農産物加工グループ等と連携し農産物直売所「おらっちゃんの店」を立ち上げた。さらに、平成20年にはパン作りが体験できるとともに、ゆったりと農村風景を楽しみながらパンやケーキを味わえるパン喫茶「粒々」を農産加工施設に併設した。

現在、消費者には収穫体験や加工体験を通じて農と食が密接な関係にあることを、子供達には生産・加工・販売作業を通じて食と農の大切さを教えている。また、氷見市女性農業士協議会長、富山県女性農業士会長等の経験を活かして、各種研修会等のパネラーや講師を務め、県内外の女性農業者に好影響を与えている。

ながた 長田 やすこ 泰子 氏（福井県大野市）

結婚と同時に就農後、JA女性部の夕市活動への参加を機に積極的に直売活動を開始し、平成5年には指導農業士に認定された。その後、奥越地区生活改善実行グループ連絡協議会で行っていた伝承活動を発展させ、大野在来大豆「大だるま」を使った味噌の加工・販売を目的に女性グループを結成しその代表となった。平成19年には法人化し、農事組合法人「豆の木」の代表理事となり、その翌年には農産物直売所「菜々彩（なないろ）」をオープンした。

また、地域では、福井県食育ボランティアとして地元の保育園との食育活動や、大野市食育コーディネーター代表として「越前おおの食育推進計画」の策定に携わっている。一方、平成12年から2期にわたり大野市農業委員を務め、地場産学校給食や家族経営協定を推進し、地域の活性化と男女共同参画の啓発に大きく貢献している。

社会参画部門（個人）

佐野 トミイ 氏（新潟県加茂市）

平成5年に農業委員に就任して以来、加茂市初の女性農業委員として、地域の相談活動等を実施してきた。平成14年に県内女性農業委員の組織結成の気運が高まり新たに設立された「にいがた女性農業委員の会」では初代会長を務めている。毎年、女性農業委員研修会等、地域の女性農業者を支える各種行事を積極的に企画・実施すると共に、全国女性農業委員活動推進シンポジウムなどの全国活動にも積極的に参加し、県内外において、交流・活躍の場を広げてきた。

平成21年11月に行われた新潟県農業委員大会では、佐野氏が緊急動議を行い、直接、市町村の首長や議会議長に要請書を手交し、直接女性委員の積極的な登用を呼び掛けたことで、女性農業委員の登用が大いに進んだ。女性の地位向上や社会参画の推進に大きく貢献している。

河二 和枝 氏（石川県金沢市）

平成10年に金沢中核農家連絡協議会婦人部会長に就任し、以来、石川県の各種農村女性活動を積極的に推進してきた。その実績から金沢市農林業振興協議会委員、石川県農政審議委員に加え、金沢市初となる女性農業委員に就いている。平成22年には、女性農業委員ネットワークいしかわ代表として、県内19市町全ての農業委員会を行脚し、女性農業委員の登用促進を精力的に普及・啓発している。

市・県・国の政策方針決定過程に積極的に参画し、農村女性活動のリーダーとして、家族経営協定の締結による女性の社会的地位の向上、食育活動による農業及び地域文化の伝承、女性の社会参画の推進等に大きく貢献している。

片岡 喜美子 氏（福井県坂井市）

昭和40年に専業農家の夫と結婚すると同時に就農し、水稻中心の経営からさらに農業所得確保をするため、園芸・加工部門を導入した。特に加工部門においては、当時まだ少なかった消費者への直接販売を開始するなどの経営努力が認められ、平成2年に福井県内で初めての女性農業指導士となった。また、農村女性が直面している課題や生産の悩みなどを解決するため、平成8年、坂井地区専業農家女性の会「実輪（みわ）の会」を設立し、研修会の開催や会員相互の圃場見学などを主体的に企画運営し、女性農業者の資質向上を図った。その後も、旧春江町で農業委員、坂井市初の女性農業委員、福井県農業会議常任会議員を歴任した。平成22年には県内の女性農業委員のネットワーク組織「福井県女性農業委員の会」を設立する中心メンバーとして活躍した。女性の社会参画活動の先駆者であり、そのリーダーとして大きく貢献している。